

What's on, Kyodokodo

2010.4.23
No.21



- 成功事例・参考事例を募集しています→<http://kyodokodo.jp/> トピックス内
- 質問・提案をお寄せください→advice@ppscamp.net
- 標準化病院死亡比(HSMR)を算出してお知らせします
→<http://kyodokodo.jp/hsmr.html> お問い合わせは toHSMR@ppscamp.net
- 参加登録病院用のバナーができました! → [パートナーズ専用ページ/トップページ](#)
- 参加登録方法に関するQ&A → <http://kyodokodo.jp/faq.html>
参加登録事項変更等に関するQ&A → [パートナーズ専用ページ/Q&A](#)

CONTENTS

共同行動からのお知らせ

- 医療安全全国共同行動 2周年記念フォーラム
にご参加ください
- 出張セミナーのご案内
- 事務所が移転しました

フォーラム・セミナー等のご案内

ひとことアドバイス

- EBMチームから
- 危険薬誤投与防止(目標1)
- 患者・市民の医療参加(目標8)

フォーラム・セミナー等のご報告

- 「周術期肺塞栓症の予防」出張セミナー

フォーラム・セミナー等のスケジュール

- 4月24日(土) ▶ 鹿児島フォーラム
- 5月9日(日) ▶ 医療安全へのヒューマンファクターズ
アプローチ入門①
- 5月15日(土) ▶ 医療安全2周年記念フォーラム
- 5月15日(土) ▶ 経鼻栄養チューブの挿入実技講習会
- 5月22日(土) ▶ 宮城フォーラム
- 5月22日(土) ▶ 弾性ストッキング・コンダクター埼玉講習会
- 6月6日(日) ▶ 医療安全へのヒューマンファクターズ
アプローチ入門②
- 6月18日(金) ▶ 弾性ストッキング・コンダクター宮崎講習会
- 7月10日(土) ▶ 弾性ストッキング・コンダクター富山講習会
- 7月11日(日) ▶ 医療安全へのヒューマンファクターズ
アプローチ入門③
- 8月1日(日) ▶ 医療安全へのヒューマンファクターズ
アプローチ入門④
- 9月11日(土) ▶ 弾性ストッキング・コンダクター姫路講習会
- 9月26日(日) ▶ 医療安全へのヒューマンファクターズ
アプローチ入門⑤
- 10月16日(土) ▶ 弾性ストッキング・コンダクター旭川講習会
- 10月30日(土) ▶ 弾性ストッキング・コンダクター東京講習会

共同行動からのお知らせ

医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”2周年記念フォーラム
にご参加ください。インターネットでもご参加いただけます

→2周年記念フォーラム専用ページを開設しました!

<http://partners.kyodokodo.jp/2010may15/>

→ポスターとチラシをホームページにアップしました。

ダウンロードして掲示・ご案内いただきますようお願いいたします。

日時: 5月15日(土) 13:00~17:45

会場: ベルサール九段 イベントホール(東京都千代田区)

http://www.bellesalle.co.jp/bs_kudan/event/



主催 医療安全全国共同行動推進会議

医療の質・安全学会、日本病院団体協議会、日本医師会、日本歯科医師会、日本看護協会日本臨床工
学技士会、日本病院薬剤師会

後援 全国知事会、厚生労働省（申請中） 参加費 2000円（資料代別）

* 事前申し込みは不要です。当日会場にて受け付けをいたします。

● 実技講習会“経鼻栄養チューブの挿入留置手技”を併催いたします

10:00～12:00 ベルサール九段 3階会議室（受講費2000円）

* 事前申し込みが必要です。お申し込みの先着順になりますことをご了承ください。

申し込み先：Keibimay15@ppscamp.net

申し込み方法・詳細は http://kyodokodo.jp/doc/event/100515_2.pdf をご覧ください。

● インターネット参加のご案内

今回は、初めての試みとしてインターネットを利用して、北海道や沖縄からの発言参加や支援チームへのネット質問コーナーなどを行います。

また、会場の様子をライブ配信します。インターネットでの視聴方法は、5月初旬に2周年記念フォーラム専用ページ (<http://partners.kyodokodo.jp/2010may15/>)にてお知らせいたします。

ライブ配信ではパワーポイント等の講演資料の詳細が見えにくいいため、可能なものについては資料を予めホームページに掲載し、併せてご覧いただけるようにいたします。ぜひご利用ください。

[プログラム]

シンポジウム

■ 開会の辞 高久史磨（医療安全全国共同行動推進会議議長／日本医学会会長）

■ 挨拶 原中勝征（日本医師会会長）

■ 地域フォーラムの報告（岩手県、沖縄県、東京都、鹿児島県）

■ 共同行動のこれまでとこれから

■ 講演 ▶「医療事故情報収集等事業から学ぶもの」

野本亀久雄（財団法人日本医療機能評価機構 理事）

▶「ひとは誰でも間違える—医療安全の基本と原則」

河野龍太郎（自治医科大学医療安全学教授）

■ インターネット中継 沖縄県立中部病院、北海道夕張医療センター ほか

■ “共同行動を応援しています”（ビデオメッセージ）

大竹しのぶ（女優）、アグネス・チャン（歌手） ほか

ワークショップ（分科会／行動目標1～8共通）

目標1～8のすべてに関係する以下の3つの課題について討議します。

A. 中小規模病院の医療安全対策

当日会場までお越しいただけない方はぜひインターネットでご参加ください。

ご質問やご提案をメールにてお寄せください。（事前・当日とも受け付けています）

* メールアドレスは、フォーラム専用ページ

(<http://partners.kyodokodo.jp/2010may15/>)にてお知らせいたします。

B. 有害事象（事故・合併症）が発生した時の緊急処置

— その時あなたは患者さんを守れますか？

C. 患者さんは医療安全のパートナー — 患者さんにできる安全対策

● 出張セミナーのご案内

「周術期肺塞栓症の予防」(目標2)支援チームでは、病院や団体の要請に応じて啓発セミナーの開催や講師派遣にご協力いたします。

* 詳しくは http://kyodokodo.jp/doc/100423_haisemi.pdf をご覧ください。

これまでに開催された出張セミナーについては06ページの「フォーラム・セミナー等のご報告」をご参照ください。

その他の目標に関する出張セミナーについても、ご希望をお寄せください。

* 宛先：共同行動支援事務局 shienjimu@kyodokodo.jp

● 事務所が移転しました

電話・メールアドレスには変更ありません。よろしくお願いいたします。

医療安全全国共同行動

東京事務所 〒102-0082 東京都千代田区一番町17番6号 一番町MSビル5階

仙台事務所 〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2番1号 東北大学医学部5号館10階東

E-Mail secretariat@kyodokodo.jp

TEL. 03-6380-9370 (東京) / 022-717-8196 (仙台)

ホームページURL <http://kyodokodo.jp/>

フォーラム・セミナー等のご案内

地域フォーラム

医療安全全国共同行動 鹿児島フォーラム

日時: 4月24日(土) 13:00~17:30

会場: 鹿児島大学 鶴陵会館

* 詳細は <http://kyodokodo.jp/doc/event/100424.pdf>

医療安全全国共同行動 宮城フォーラム

日程: 5月22日(土)

会場: 仙台市医師会館 * 詳細は追ってお知らせいたします。

8目標に関連するセミナー、シンポジウム、講習会

医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ入門

定員に達したため、募集を締め切りました

日程: 5/9日(日)、6/6日(日)、7/11(日)、8/1(日)、9/26(日) 全5回

会場: 自治医科大学付属病院 地域医療情報研修センター

* 詳細は http://kyodokodo.jp/event_list.html

NEW! 実技講習会“経鼻栄養チューブの挿入留置手技”

～安全な経鼻栄養チューブの挿入を目指して 一人・物・技術(目標3aに関連)

日時: 5月15日(土) 10:00~12:00

会場: ベルサール九段 3階会議室

* 詳細は <http://kyodokodo.jp/doc/event/100515.pdf>

弾性ストッキング・コンダクター講習会（目標2に関連）

〈埼玉地区〉

日時: 5月22日(土) 13:00~16:30

会場: 大宮ソニックシティー・パレスホテル大宮

〈宮崎地区〉

日時: 6月18日(金) 13:30~17:00

会場: フェニックス・シーガイア・リゾート内、ワールドコンベンションセンターサミット

〈富山地区〉

日時: 7月10日(土) 13:00~16:00 (予定)

会場: 上市町文化研修センター(予定)

〈姫路地区〉

日時: 9月11日(土) 13:00~17:00

会場: 姫路商工会議所

〈旭川地区〉

日時: 10月16日(土) 午前中

会場: 旭川文化会館(予定)

〈東京地区〉

日時: 10月30日(土) 13:00~17:00

会場: 杏林大学 大学院講堂

主催: 日本静脈学会弾性ストッキング養成委員会

<http://www.js-phlebology.org/japanese/sscc/index.html>

CPR講習会 ~ICLS・ACLS・BLS・PALS講習会（目標6に関連）

4月までの講習会をご案内しています。

* <http://kyodokodo.jp/doc/event/091225CPR.xls> をご覧ください。

ひとことアドバイス

EBMチームから

経験知をシェアし、知恵を出し合おう



筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター 徳田 安春

今回の医療安全全国共同行動の行動目標は、有害事象に関する5つの行動目標と医療安全の組織基盤強化に関する3つの行動目標からなります。共同行動がスタートする前に、わたしたちEBMチームは、これらの行動目標に含まれる具体的な推奨項目についてエビデンス・レビューを行いました。これらのレビューにあたり我々は、わが国の国内学会や米国等の諸外国における国立機関や学会等が発行した診療ガイドライン等も参考にしました。

一般に、予防的介入の効果を検討するためには、コホート研究や症例対照研究などの研究デザイン手法に比べて、ランダム化比較試験Randomized Controlled Trial (RCT)の信頼性が高いといわれています。しかしながら、今回の推奨項目のなかには、RCTが存在しないものもあり、その場合にはできるだけ、非ランダム化比較研究や観察研究などで重要な論文を抽出選択し、その内容を吟味するように努めました。実際、医療安全領域の予防的介入については、現実的にRCTを施行することが困難なものが多く、RCTがなくてもその有効性は総合的な判断からみて十分であると判断されるという状況があるとされております。

経験知をフルに活用してPDCAサイクルを回すという発想は、もともと企業活動における安全性と生産性の改善プロセスにその由来があります。医療現場はリスクに満ちた複雑系生命体といわれています。複雑系理論では、ある介入を実行した場合には、予期せぬ結果unintended consequenceの発生が認められることがあるといわれています。参加病院において、みなさんが具体的な推奨項目を実行したときに、もし予期せぬ結果unintended consequenceの発生がありましたら、ぜひ医療安全全国共同行動事務局までご一報ください。そのような経験知を参加病院間でシェアしながら、これらに対する改善案について知恵を出し合うことが全国の病院での医療安全の向上に重要であると考えます。

危険薬の誤投与防止(目標1)

救急カートの施錠は必要か？

行動目標1:危険薬の誤投与防止支援チーム

「行動目標1:危険薬の誤投与防止」支援チームに、登録病院から質問があり、メールで意見交換が行われましたので、その概要を報告させていただきます。

保健所による監査や医療機能評価機構の審査の際に、救急カートの施錠の必要性について指摘、指導されることがあります。

実際には監査や審査の担当者の考え方によっても温度差があるかもしれませんが、いざという時にかえって不都合が起こらないかと、対応に苦慮している病院もあるかと思えます。

1) 施錠すべきとする根拠について

- ・毒薬と劇薬を「薬事法」で見ると、

(貯蔵及び陳列)第48条 業務上毒薬又は劇薬を取り扱う者は、これを他の物と区別して、貯蔵し、又は陳列しなければならない。

前項の場合において、毒薬を貯蔵し、又は陳列する場所には、かぎを施さなければならない。

- ・向精神薬を「麻薬及び向精神薬取締法施行規則」で見ると、

(保管等)第40条 向精神薬取扱者は、その所有する向精神薬を、その向精神薬営業所、病院等又は向精神薬試験研究施設内で保管しなければならない。

前項の保管は、当該向精神薬営業所、病院等又は向精神薬試験研究施設において、向精神薬に関する業務に従事する者が実地に盗難の防止につき必要な注意をする場合を除き、かぎをかけた設備内で行わなければならない。

2) 対応する場合の基本について

上記法律で考えると、

- ・普通薬及び劇薬のみの保管であれば施錠の必要はない。
- ・毒薬と一緒に保管する場合は、施錠が必要。
- ・向精神薬は、施錠をするか、業務に従事する者が実地に盗難の防止につき必要な注意をする(ナースステーション内の職員がよく見える場所に置く等)かのいずれかが必要。

3) 現実的運用について

・救急カートの院内標準化を進める際には、救急カートに入れる薬剤を上記の基本的事項を考慮して選定することも重要と思われます。

- ・どうしても毒薬(筋弛緩剤等)や向精神薬(ジアゼパム等)を準備しておきたい場合には、それだけを別扱いにして、その部署の定数配置薬として鍵付き金庫に保管しておくという対応もよいと思われます。
- ・施錠しない場合でも、救急カート内の定期的チェックのみならず、引き出しを紙テープで封印するなどして、使用状況をしっかり管理することが推奨されます。

患者・市民の医療参加（目標8）

からだと病気を知らるために ―患者図書室のすすめ―



東邦大学医学メディアセンター 司書次長 山口 直比古

患者図書室設置の目的は、インフォームドコンセントを支援することにあります。医師が患者に疾患、診断、治療などについて説明を行い、患者に理解していただくインフォームドコンセントにおいては、通常患者の側に情報が不足しがちです。また、患者は忙しい医師や医療従事者に尋ねることがなかなかできません。診断方法や治療方法について、患者が自己決定をするためには、医師の説明ばかりではなく、理解できる情報が、本や雑誌などの形で提供されることが望ましく、その情報資料を提供する場としての患者図書室が、病院内にあるとよいでしょう。病院内では、場所の確保は難しい問題です。しかしながら、狭くとも専用の場所を用意するか、あるいは、最近では外来待合いの一画（オープンスペース）に場所を提供している病院も増えてきています。

そこでは、情報提供の専門家である司書が、患者の知りたい情報を得るための手助けをすると、より一層効果的に診療の支援を行うことができます。患者図書室では、こうした人による支援が大切になるので、ボランティアを含めた人を確保することが必要です。

医学にかかわる情報は、常に新しいものを提供したいので、資料を購入するための予算は確保したいところです。最近では、患者や一般市民向けにやさしく書かれた医学書が多数出版されています。年間で30～50万円程度は用意したいところです。お金のかからない寄贈本にたよるのは、情報が偏る可能性があるので、できるだけ避けるべきでしょう。

病院内では、患者は緊張を強いられ、強いストレスを感じるものです。そのため、病院の雰囲気とは違う、ほっと一息つける場所が病院内にあるとよいかもしれません。患者図書室がその役割を果たすことができるよう設計することも可能でしょう。

フォーラム・セミナー等のご報告

周術期肺血栓塞栓症予防に関する出張セミナーのご報告

行動目標2 周術期肺塞栓症の予防 チームリーダー 自治医科大学教授 瀬尾 憲正

これまでに開催された出張セミナーは以下のとおりです。

- 1.「周術期系血栓塞栓症の現状と対策」講師 自治医科大学 瀬尾憲正
平成22年3月2日（火） 前橋赤十字病院
- 2.「ICU 患者における静脈血栓塞栓症の管理」講師 自治医科大学 瀬尾憲正
平成22年4月3日（土） 第15回鹿児島集中治療研究会／城山観光ホテル
- 3.「周術期肺血栓塞栓症の予防について」講師 自治医科大学 瀬尾憲正
平成22年4月7日（水） 旭川医科大学

[内容]

日本の周術期肺血栓塞栓症の現状の説明と今後の展望について概略し、病院全体の医療安全行動として行ううえでのノウハウや、実施上の注意事項などについて説明しました。また、発症時の対策や患者との協力の重要性など、その他の医療安全共同行動の行動目標についても紹介しました。参加者は医師だけでなく、看護師や臨床工学士などコメディカルの方々の出席があり、病院全体での取り組みの姿勢がうかがえました。新しい抗凝固薬による予防法の実施が始まっており、出血性合併症対策や安全管理についての質問が出されました。

* 出張セミナーについての詳細は http://kyodokodo.jp/doc/100423_haisemi.pdf をご覧ください。

共同行動キャンペーンポスターをご利用ください
(HPからダウンロードできます)

- 医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”(日本版100K)
- 行動目標別キャンペーンポスター完成見本(目標1～目標8)
 - 公開ページ…[トップページ](#)
 - パートナーズ専用ページ…[トップページ](#)
- 行動目標別キャンペーンポスター基本デザイン(目標1～目標8)
 - パートナーズ専用ページ…[トップページ](#)

★ウェブマガジンWhat's on, Kyodokodoは5月より第1・第3金曜日に配信します
院内にて掲示・回覧・配布等、ご活用ください

医療安全全国共同行動 “いのちをまもるパートナーズ”
ウェブマガジン What's on, Kyodokodo 編集室
E-mail: secretariat@kyodokodo.jp URL: <http://kyodokodo.jp/>